

# 名寄高新聞

## 新人戦特集

北海道名寄高等学校新聞局

2021. 1. 19

発行責任者 小田桐 知哉

### 南ブロックバスケット新人大会:名寄スポセン

## 男子 決勝で下商に惜敗

### 準決勝は翔雲に勝利

12月12日に、第63回名寄支部南ブロック高校バスケットボール新人大会・兼第33回北海道高校バスケットボール新人大会名寄地区予選が名寄市スポーツセンターで行われた。

男子の部には名寄高校、土別翔雲高校、下川商業高校が出場した。名高は準決勝で土別翔雲に60-54で勝利したが、決勝で下川商業に64-67で惜敗し、2位となり全道大会進出はならなかった。また、女子の部には名高のみの参加となり、名高は無試合で全道大会出場権を獲得した。

初戦の土別翔雲戦に、名高は池田拓翔主将(2B)、林竜之介君(2C)、林晟風君(2A)、宮腰涼太君(2B)、町駿太郎君(2



ゴール下に走り込みシュートを放つ池田拓翔主将



ゴール下からシュートを放つ林竜之介君

0)のスターティングメンバーで臨んだ。

第1クォーターは、池田主将が幸先良くミドルシュートを決め先制すると、町君がゴール下から素早くシュートを決め4-0。さらにその後、速攻から宮腰君のシュートで6-0とするが、相手に立て続けに攻撃を許し6-5まで追い上げられる。中盤で名高は絶妙のパスから林竜君がシュートを決めるなど優位にゲームを進めるが、終盤に相手の速攻を許し、14-14で第1クォーターを終えた。

第2クォーターでは、池田主将が2本のシュート、林晟君がシュートとフリースロー、宮腰君がリバウンドからのシュートを1本決め、23-14とリードする。その後、途中出場した宇佐美諒君(2A)がゴール下からシュ

ートを決めるなど着実に点を積み重ねてリードを広げる。残り2秒で翔雲にスリーポイントシュートを決められるが、33-25で第2クォーターを終えた。

第3クォーターは、池田主将が右からミドルシュートを、宮腰君が左ゴール下からシュートを決めてリードを広げる。さらに、両サイドから池田君や林竜君がミドルシュートを決めて43-30と引き離す。しかし、翔雲も2本の3ポイントシュートなどで反撃し、47-40で第3クォーターは終了した。

最終の第4クォーターは、序盤から相手に攻め込まれる展開となる。名高はフリースローで合計3点を得るも、翔雲が怒濤の勢いで得点を重ね50-50と同点とされる。しかし、池田主将がミドルシュートや3ポイントシュート、フリースローなどで8得点を挙げ突き放し、流れを名高に引き込む。すると、最後は宇佐美君が池田主将のシュートのリバ



素早くミドルシュートを打つ林晟風君

(裏面へ続く)



ゴール下でボールを受けシュートする宇佐美諒君  
ウンドを取り、ゴール下から得点。苦戦を強いられるも60-54で翔雲を下し、決勝戦へと駒を進めた。

名高は決勝で下川商業と対戦。スターティングメンバーは池田主将、林竜君、宮腰君、町君、宇佐美君。

第1クォーターは、町君がシュートを決め先制すると、宮腰君の3ポイントシュート、

池田主将のランニングシュートなど、立て続けに得点し10-0と大きくリードする。その後も優位に試合を展開し、町君のフリースローやゴール下からのシュートなどで点を重ね、20-9で第1クォーターを終了した。

第2クォーターでは、相手に3ポイントシュートを決められ点差を詰められるも、池田主将が左から、宇佐美君がセンターからミド



ディフェンスをかわしシュートする町駿太郎君

ルシュートを決め加点する。その後は、名高が池田主将の3ポイントシュートや宮腰君のミドルシュートなどで追加点を上げると、負けじと下商も速攻などで反撃する展開となり37-29で第2クォーターを終える。

続く第3クォーターは、下商の3ポイントシュートを多投する作戦で点差を詰められ、39-41と逆転を許す。その後、池田主将のミドルシュートで同点とするが、再び下商の3ポイントシュートが決まり、リードを許す展開となる。しかし、林竜君の5得点で同点とすると、池田主将のアシストから町君が得点。さらに相手の得点後、再び町君がリバウンドを取って得点し50-48。すると、リズムを取り戻した名高は、宮腰君がディフェンスをかわいくぐりシュートを決めるなどし、54-48で第3クォーターを終えた。

そして、最終の第4クォーター。序盤から名高は積極的にシュートを打つも2得点にとどまり、56-48。この状況の中、林竜君が足をつり退場を余儀なくされる。すると流れが下商に移り、56-54と迫られる。池田主将がミドルシュートを決め58-54としたところで、林竜君が復帰。下商の得点後、町君がフリースローで加点するが、3ポイントシュートを決められ、59-59の同点となる。その後、互いに譲らぬ展開が続き64-64。ここで突破口を掴みたい名高だったが、下商にまたも3ポイントシュートを決め



ゴール下に駆け込みシュートする宮腰涼太君  
られリードを許す。すると今度は池田主将が足をつり退場。64-69とされ、残り1分で池田主将が足を引かずながらも復帰するが、またしても下商に3ポイントシュートを許し64-72。最後に宇佐美君が右からミドルシュートで得点するが一歩及ばず、66-72で敗戦。善戦及ばず、惜しくも優勝に届かなかった。

## 全道の目標に向け成長する 池田 拓翔 主将

今までの大会で納得のいく成績が残せていなかったの、結果につなげるため細かい基礎からチームプレーまで徹底的に練習して大会に臨んだ。

初戦の翔雲戦は思ったより苦戦してしまった。自分たちのミスから相手の得点につながってしまい、次の試合ではどうにかし

ようと2年生を中心に話し合った。その結果、強豪の下商戦では改善することができたので良かった。それでも結果は負けなので、さらに練習に励み次は絶対に勝ちたい。

これからは高体連で勝って全道に行くという目標を見失わず、歩みを止めないで少しずつ成長していきたい。

## 下商戦で名高のプレー発揮 櫻庭 裕晃 監督

大会に向けてディフェンスとオフェンスの切り替えやパスを多く練習した。

翔雲戦では思いのほか選手が緊張していて、普段しないようなミスが出ていたので驚いた。それでも2試合目はミスが減って、自分たちがやりたいこと、練習してきたプレーをすることができた。

試合中に選手が足をつったのは、全道がかかった試合という緊張感がプレッシャーとなり、体力が削り取られたのだと思う。

コロナの影響で試合数は少ないが、今までできなかったことや課題を少しずつ克服して、最後の高体連に向けて頑張っていきたい。